

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

岐阜県 養老町

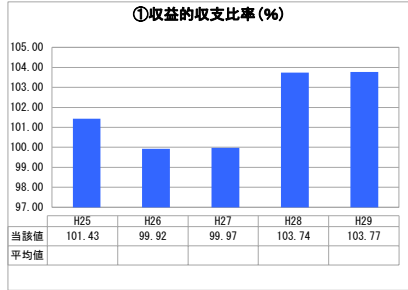
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	1.45	103.14	3,178

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
29,508	72.29	408.19
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
424	0.71	597.18

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



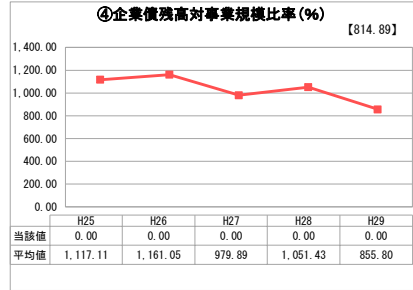
「単年度の収支」



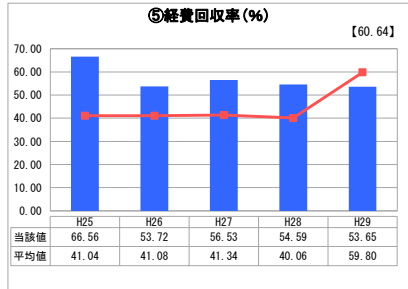
「累積欠損」



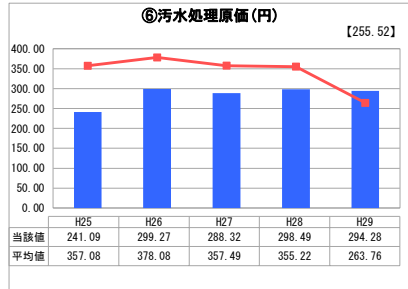
「支払能力」



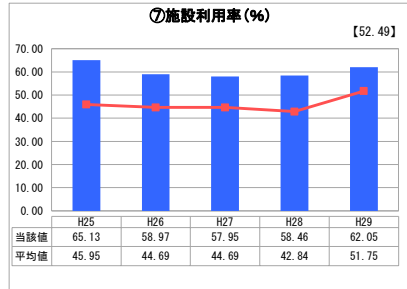
「債務残高」



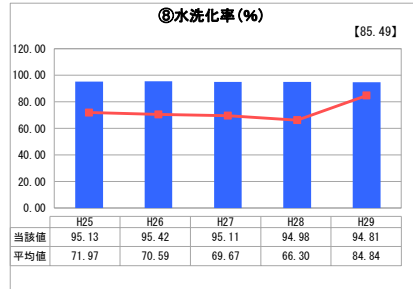
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

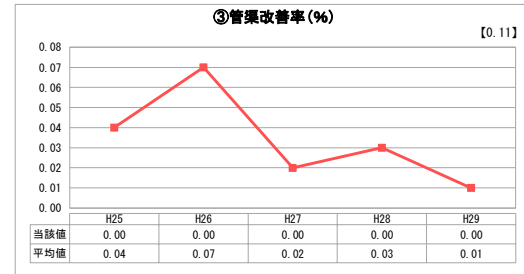
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「収益的収支比率」は100%以上となっていることから黒字を示していますが、「経費回収率」は100%を下回っており、汚水処理に係る経費を使用料収入で賄えていないため、不足分については一般会計からの繰入で補填しています。「企業債残高対事業規模比率」が0となっているのは、全額を一般会計からの繰入で負担しているためであり、一般会計からの繰入に依存せざるを得ない状況となっています。

「汚水処理原価」は、昨年よりも下がっているものの類似団体よりは高い状態にあり、汚水処理費の削減に努める必要があります。

「施設利用率」、「水洗化率」とともに類似団体より高い数値となっていますが、事業規模が小さく整備が完了しているため、これ以上の水洗化率の向上は期待出来ない状況です。

今後は汚水処理人口の減少が予測されることから、維持管理費の削減に取り組んでいく必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始は平成14年であるため、管渠の更新の必要性は今のところありませんが、上多度浄化センターの電気・機械設備については、目標耐用年数を設定し、計画的に改築更新実施していく必要があります。

### 全体総括

現状は、健全な経営とは言いがたく、経営改善を図っていく必要があります。

そのため、平成30年8月より使用料を改定し、適切な料金収入の確保に努めていきます。

また、平成28年度に策定しました経営戦略を基に健全経営に努めていきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。